

## 愛知県における男性家庭科教員の担当状況の研究・調査（第2報）

○今村浩一（愛知県立安城南高）

**目的** 1989年に高等学校学習指導要領が改訂され、家庭科が男女共修になった。改訂学習指導要領は1994年度から実施され、相前後して高等学校においても男性家庭科教員が誕生した。男性家庭科教員の現状については、歴史が浅いこともあって、先行研究はほとんどなく、昨年第1報として、愛知県立高等学校を対象に担当状況の研究・調査を実施したのが実証的なものとしては最初である。第2報として、引き続き担当状況の研究・調査を継続するとともに、家庭科を何年か経験した男性教員についてアンケート調査も実施した。

**方法** 愛知県の『家庭科要覧』の会員名簿を用いて、男性家庭科教員の授業担当者を抽出。それに基づいて、各学校『学校経営案』1998年度版から担当教科・科目、校務分掌等の各項目を全数調査した。この調査は1996年度から継続して実施している。あわせて、家庭科を経験した教員を対象にアンケート調査を行って男性家庭科教員の実態についての補足調査を行った。

**結果** 愛知県の場合に限定されるが、初めて養成から教科担当に至るまでの男性家庭科教員の全容を明らかにした。本研究の独自性もここにある。あわせて養成における経歴・調査、アンケート調査により、労働社会学におけるライフコースの視点から教員生涯における家庭科担当の意義づけも明らかにした。また、教員の知的熟練、力量形成にも言及し、男性家庭科教員の養成の論議のなかで注目されなかった専門性とOJT（仕事を通じての教育訓練）の関連についても一定の見解を示した。